

An Invitation to Traditional Music

1971
作品ナンバー0097

〔伝統音楽への招待〕

第15回日本紹介映画コンクール佳作賞 第2回オルベットー国際伝統芸能工芸映画祭音楽評論賞（イタリア）

中国から渡来し、時代の変遷をへて完全に日本化された箏（こと）と、尺八、三味線を中心に、日本のリズムの、序・破・急で映画を構成している。



静かな庵で、奏者が1人で尺八を吹いている。尺八は奏者の呼吸がそのまま音楽となるため、日本の伝統的リズム感を最も端的に表している。するどい迫力と、非合理的な音列をもつ尺八の演奏、それは書道の筆の運びにも、茶道の点前にも、仕舞のゆっくりした動きにも、当てはまる（序）。

ついで、座敷での箏の賑やかな演奏をみせる。日本音楽の調和と均衡、不即不離（つかずはなれず）ぶりを聞かせる。ここでの箏曲は日本の古典文学『源氏物語』からとった「葵の上」（近世の山田検校の作曲）で、箏を最初に中国から輸入した雅楽や能などを劇中劇のような形で出し、同じ「葵の上」でも時代によって異なる解釈を示して伝統の変化を描く（破）。

最後に現代の、箏、三味線、尺八の奏者を集めたアンサンブルを見せる。近世まではこれらの伝統の楽器は、人々の階層や音楽の種目によって分けられていて、このように一緒に合奏されることは許されなかった。それぞれの楽器は、他を圧して君臨したり、独走したりすることなく互いの関係を意識しつつ、感覚的にバランスをとって演奏されていく（急）。

記録

35ミリ

カラー／25分

英・仏・独・西・

葡語版

■企画
外務省

スタッフ

■製作
村山英治
■脚本
小泉文夫
■演出
木村莊十二
■撮影
木塚誠一
■照明
平田光治
■編集
沼崎梅子
■音楽
三木 稔
■編集
ブライアン・
マキアーニー
(英語版)